

会議録要旨

(1) 会議の名称	令和2年度 第1回越前市下水道事業推進対策協議会
(2) 開催日時	令和2年8月28日（金曜日）午後1時30分～午後2時45分
(3) 開催場所	越前市水循環センター 会議室
(4) 出席委員氏名	奥村会長 横住副会長 浅沼委員 前田委員 門前委員 田中委員 増田委員 國定委員 野村委員 小柳委員 須磨委員 以上11名
(5) 欠席委員氏名	なし
(6) 事務局職員職氏名	建設部 藤原部長 三田村理事（下水道課長兼務） 下水道課 奥山副課長 市村浄化センター所長 磯川主幹 小原主幹 村上主幹 高橋主幹
(7) 会議議題	1 下水道の整備状況と今後の計画について 2 下水道事業経営の現状と今後の取組について
(8) 傍聴者の数	なし
(9) 会議資料の名称	令和2年度 第1回越前市下水道事業推進対策協議会 資料
(10) 会議の内容の要旨	<p>●委員の互選により、会長に奥村委員、副会長に横住委員が選出された。</p> <p>議題1 下水道の整備状況と今後の計画について</p> <p>事務局より、汚水処理施設の種類、下水道整備状況、新技術の導入（下水道クイックプロジェクト）、下水道ストックマネジメント計画の説明を行った。</p> <p><u>①下水道クイックプロジェクトについて</u></p> <p>（質問） クイックプロジェクトの採用による工期の短縮、工事費削減効果は。</p> <p>（回答） 現在計画中の現場は（本来下水道を布設すべき）道路が無く、比較できない。 水路横断等の深く掘る必要がある場所では、工事費が半分以下になると考えられる。</p> <p>（質問） 今後の整備はクイックプロジェクトが主流となり、建設コスト全体を抑制できるのか。</p> <p>（回答） 維持管理の面から道路への布設が望ましく、クイックプロジェクトが主流にはならない。 この工法は、限られた箇所に適用するもので、建設コスト全体に与える影響は小さい。</p> <p>（質問） クイックプロジェクトで敷設する管の素材は、通常工法の管と同じか</p> <p>（回答） 同じである。紫外線に弱いので被覆とか土を盛ったりしないといけない。</p> <p>（質問） 水害とか豪雨やがけ崩れなどの天災を想定して整備しているか。</p> <p>（回答） がけ崩れの可能性のある場所には整備しない。</p> <p><u>②下水道整備について</u></p> <p>（質問） 下水道管路の深さはどれくらいか</p> <p>（回答） 約1.5m～約3.5mの深さに埋設し、平均すると2～2.5m程度。 賦課さ3.5mを超えるような場所は開削工事が困難なため、地中をトンネルのように掘</p>

り進む推進工法を採用している。

(質問) ポンプ場の必要なところもあると思うがどれくらいあるか。

(回答) 市内に約50か所ある。

(質問) 処理場の場所はどのように決めたのか。

(回答) 本市市街地は、地形の勾配が南から北へ向かって下がっている。

地形的なこと、処理水を放流する川の高さとのバランスを考慮し、場所を決定した。

議題2 下水道事業経営の現状と今後の取組について

事務局より、市下水道事業経営戦略に掲げる取組項目の進捗状況及び達成度の説明を行った。

①地域ぐるみ接続奨励金制度について

(質問) 地域ぐるみ接続奨励金制度の現在の取組状況とその効果は。

(回答) 本制度は、3年間という期間の中で町内に下水道普及促進に取り組んでもらうもの。

下水道整備区域では、現在取組中と取組完了の町内合わせて、73町内。

浄化槽整備区域では、11町内。

切替件数実績については、後日、お知らせする。

(質問) この制度は、個人と町内会にお金が入るとのことか。

(回答) 下水道整備区域では、個人と町内に対し、奨励金を交付する。

浄化槽整備区域では、町内に対して（汲取り槽や単独処理浄化槽から合併処理浄化槽に切り替えた件数に応じて）奨励金を交付する。

合併処理浄化槽設置者個人には、槽の大きさに応じて設置費に対する補助を行う。

②公営企業会計について

(質問) 公営企業会計に移ったのは公共下水道のみか。

(回答) 公共下水道、農林業集落排水、戸別公共浄化槽について、公営企業会計に移行した。

(質問) これらの事業は経営統合されているのか。

(回答) 会計は一本化している。ただし事業別に管理しており、決算でも内訳を表示する。

③汚水処理に関する負担について

(質問) 下水道と浄化槽でランニングコストに格差はあるか。

(回答) 浄化槽は大きさによって維持管理費が変わり、下水道は使用水量で使用料が変わる。

一部の集落排水と戸別公共浄化槽の地域では世帯人数によって使用料が変わる。

ただし、標準的な世帯（4～5人）では負担が同等となるよう使用料を設定している。

(質問) 適正な料金を考えるとき、公共下水道と集落排水との経営状況の差がかなり出てくる可能性があるが、どのように考えているか。

(回答) 公共下水道と集落排水の経営状況は違うが、使用料はほぼ統一されている。

それぞれの使用料のあり方については、今後決算の分析をしながら検討していきたい。

④その他

(質問) 集落排水は、将来的に公共下水道に統合されるのか。

(回答) 公共下水道に統合できるものは統合し、下水道事業全体の経営改善を図りたい。
昨年度より、農業集落排水施設の現状と将来負担、統合可能性などの調査に入った。

(質問) 汚水処理人口普及率の目標達成に向けた取組みについての評価のみ△となっており、その原因は合併処理浄化槽の普及が進んでいないとのことであるが、普及促進に向けた家庭訪問などを行っているか。

(回答) 大口需要家や集合住宅への訪問営業は行っているが、個人宅までは広がっていない。

●次回開催日について、協議すべき事項が出た時点で都度、開催することとし、委員の了承を得た。